

令和 4 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立伊都中央高等学校 定時制課程 校長名：角 谷 晴 生

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- ・一人一人の生徒が安心して学ぶことのできる、学校と地域が一体となった、「地域とともにある学校」づくりをめざす。
- ・「志を高く掲げ、将来にわたって豊かな人間関係を築きながら社会を生き抜く力」、「困難に直面しても、あきらめることなく自らの未来を切り拓く力」、「人々との関わりの中で、互いに鍛え合い、支え合い、学び合い社会に貢献する力」を身につけた生徒を育成する。

学校評価の公表方法

学校ホームページにて公表する

現状・進捗度

A	十分に達成している。	(80%以上)
B	概ね達成している。	(60%以上)
C	あまり十分でない。	(40%以上)
D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（1月13日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	学習意欲の向上と特別支援教育の充実	B	「分かる授業」の実践	公開授業の実施による他者による評価 授業評価の実施による生徒による評価	B	ICT活用などによる、学習の理解度や意欲の向上に努め、生徒による評価は向上傾向にある。	校内研修を効果的に活用し、ICT活用をはじめとした授業改善をさらに進めることで、「わかる授業」を実現し、学習意欲向上へと導きたい。 つなぎ愛シートのさらなる活用を図り、より適切な支援計画を作成、活用する。
			生徒一人一人に寄り添った、きめ細かな指導とサポート	基礎基本を重視した学習と個々に応じた学習の取組状況	B	学び直しを基本理念とした授業を一部に取り入れ、だれひとり取り残さない学習指導に取り組んでいる。	
			個々の生徒の適切なアセスメントと支援計画の作成	つなぎ愛シートの作成と活用状況は適切か 適切なケース会議の実施が行えたか	B	関係機関との円滑な情報共有と適切なケース会議により、個々の生徒への適切な支援につながるよう努めている。	
2	地域と連携した取組の推進	B	伊都中央カフェの実現	地域と連携した取組が行えたか	B	制限の多い中、実現に向けた準備を行うことができた。	新型コロナウイルスに対する社会的な状況の変化に合わせて、徐々に活動を広げることができている。今後、さらに取組を増やしていく。
			地域のボランティア活動への参加	積極的に参加できているか	B	地域のイベント等に積極的に参加することができた。	
3	校内研修の充実	C	ICTを活用した授業の研究	効果的な研修と研究授業が実施できたか	B	具体的な活用例を研修することで、授業に反映することができている。	外部講師の招聘や、他校への訪問をエッセンスとしながら、校内における研修の深化を図り、定期的、継続的なものとする。
			生徒支援に関する研修の実施	特別支援学校との連携等による効果的な研修が実施できたか	B	特別支援学校への授業見学や校内研修の実施により生徒支援に関する見識を深めた。	
4	外部への発信の強化	C	学校ホームページの充実	コンテンツが充実できたか 適切な更新が行えたか	A	トピックスの掲載を適宜行うとともに、ホームページのリニューアルを行った。	現代の情報収集のあり方を研究し、ホームページなどによる発信方法のさらなる改良を進めながら、地元地域へも情報が円滑に届く方法を考察し、実行する。
			地域コミュニティを活用した教育活動の発信	適切な時期・方法で発信できたか	B	文化祭への招待や公民館での作品展示などを通じて、発信することができた。	

学校関係者評価（2月9日実施）

学校評価・意見

- ・「地域とともにある学校」づくりに向けて、生徒による地域でのボランティアを通じた活動が定着してきている。今年度は新型コロナの影響で制限はあったが、できる範囲でがんばってくれた。来年度こそは生徒達がどんどん地域に出て大活躍することを期待している。
- ・地域活動や公民館活動への積極的な参加に感謝している。さらに地域のお年寄りと関わる機会を作って欲しい。
- ・コロナで中止になっていた地域での活動が増えてうれしい。
- ・介護福祉に力をいれていてすばらしい。関係の資格に挑戦できる授業が良いと思う。
- ・伊都中央高校は特色があると評価されている。生徒会活動も高評価を得ている。進路指導には、地域の力を借り、実際の仕事を体験してはどうか。
- ・生徒は定通教育の柔軟性に魅力を感じて入学してきている。そういう生徒の夢実現に向けて、学校あげて支援してほしい。
- ・個性を生かした教育をお願いしたい。
- ・生徒の学校評価を見せてもらうと生徒会活動や部活動の活発化を望んでいるようなので、さらなる活発化に向けて取り組んでほしい。
- ・地域と連携しながらキャリア教育を進め、将来地域産業を支える人材育成に努めてほしい。

授業参観評価・意見

- ・教員との信頼関係があるのか、暖かい教室の雰囲気がある。
- ・授業の原点を見せてもらうことができた。とても良かった。
- ・授業の前後を知らない良さがわからない部分がある。授業の評価をするにはトータルしてみる必要がある。

令和 4 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立伊都中央高等学校(通信制課程) 校長名： 角谷 晴生

<p>目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）</p> <p>地域と連携し、自信を育みながら卒業まで導き、社会的職業的自立を支援する学校 自信を持って、地域社会で活躍できる生徒</p>

<p>学校評価の公表方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページ等によって公表する。 ・学校運営協議会に提出する。
--

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（2月10日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	学びやすさ・登校のしやすさ（生徒の活動率の向上）と全人的発達	B	生徒との対話と丁寧な相談・スクーリング等	活動率・卒業生徒数と授業評価	A	活動率、卒業生徒数とも昨年度より上昇、増加した。	今後も、チーム学校で自信を育みながら卒業に導き、自立を支援することが本校において大切であるが、入学時より生徒情報の収集と共有を徹底し、専門的な知見を生かし他と繋がりながら、生徒支援を充実深化させたい。そのため、SC・SSWの重要な会議への出席や現職教育により心理と福祉の視点を生かした予防的な見地での学校創りを展開する。
			SSWとSCの福祉と心理の視点による教育活動の専門的支援	関係機関との連携等適切な支援ができたか	B	学びに向けた環境整備が支援できた。	
			前籍校への聴き取りと対話等による生徒理解と丁寧な個別対応	月1回の生徒情報共有会の実施と生徒・保護者による評価	A	生徒情報の共有は徹底でき、評価はほぼ肯定的であった。	
			特別活動への出席	特別活動の工夫と出席への積極的な呼びかけ	A	教員の声かけ等もあり、増加した。	
			企業やハローワーク、上級学校へのアプローチ	適切に個別に希望進路の支援ができたか	A	進路指導部と担任が主に支援し希望者全員進路決定した。	
			年2回の組織的な不活動生徒への丁寧なアプローチ	効果的なアプローチができたか	A	組織的なアプローチ等により活動率上昇の一因となった。	
2	地域と連携した取組の推進によるキャリア教育の充実	C	地元企業の本校の協力企業化	地域と連携し、企業に働きかけが行えたか	B	生徒保護者に趣旨や目的を周知できたが、課題が残った。	キャリア特別講座や企業と連携したLHRの充実・定着と地元企業の協力企業化を工夫して、取り組む。
			講座による地域連携	講座を開設・開講できたか	A	高野学等を開講した。	
			就労の奨励と生徒の活動（クラブ活動等）による地域貢献	積極的に貢献できているか	B	キャリア講座の開設やLHRを工夫した。	
3	外部への発信の強化	C	学校ホームページの充実と地域教育コミュニティを活用による広報	コンテンツの充実と適切な更新ができたか、広報は適切か	A	HPの更新は随時行い、適切に広報した。	通信制の教育活動がわかるように、HRの継続的な更新と伊都通報等を充実させる。
			学校についての説明会、入学事前説明会等の実施	効果的に実施できたか	A	計画的に組織的に実施した。	
4	生徒支援や授業改善等の研修の充実	B	特別支援学校のセンター的機能・オンライン研究会等の利用	効果的な研修が実施できたか	A	会議、学習指導支援員制度、研究会を利用し研修した。	SSWやSCによる研修や先進校訪問、積極的な教育研究会等への参加を推進する。
			ICTを活用したスクーリング研究	レポートも含め一体的に研究できたか	B	NHK高校講座の視聴活用を推進した。	

学校関係者評価（3月1日実施）

<p>全体的によくやっているとの評価をいただいた。</p> <p>以下に、各委員から学校評価用紙に記入いただいた内容を記載します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の特色を活かした教育の推進を期待する。 ・ユニバーサルデザインに基づいた特別支援教育の充実が図られてきている。来年度以降も継続して取り組み、個々の生徒にあったスクーリングの在り方を研究してほしい。 ・教職員のカウンセリングマインド育成に向けた研修を設け、生徒の相談に対して親身な対応ができるような教育相談活動のより一層の充実を望む。 ・本年度はコロナ禍にあって高野山大学と連携した夏季集中講座等生徒の単位修得に向けた柔軟なカリキュラムマネジメントが進んでいる。さらにICTを活用した講座などで単位修得の機会の増加を望む。 ・生徒の学校評価アンケートを見て進路に不安を持っている生徒が多いことから、長期インターンシップやジョブシャドウイング等の手法を用いてキャリア教育の充実を図ることを期待する。 ・スクーリング時の生徒の動線が安全に確保されているのか、特に、雨天時が気になる。 ・通信制の特色をもっと生かせないか。資格取得等についても「たぐみな仕掛け」を提案し、将来の社会の担い手としての自覚を持たせることを期待する。 ・今以上にスクーリングの機会を増やす事を期待する。
